

津波で被害を受けた東北の海岸防災林の再生に貢献します ーマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木の飛躍的増産への取り組みー

1 概要

東日本大震災では、東北地方太平洋側地域において 1,000ha 以上の海岸防災林が津波によって壊滅的な被害を受けました。被災した海岸部周辺において、住環境を改善し、産業を復興するためには、樹種として耐塩性に優れたクロマツを主に植栽し、潮・風・飛砂への防備機能を持つ海岸防災林を再生する必要があります。東北地方はマツ材線虫病被害の最前線であるため、病原体であるマツノザイセンチュウに対して抵抗性を持つクロマツ（抵抗性クロマツ）苗木を用いることが重要です。しかしながら、海岸防災林の再生計画で予定されている膨大な需要に対して、現状では東北地方産抵抗性クロマツ苗木の供給量には限りがあります。このため（独）森林総合研究所は、平成 25 年度に東北地方の公設研究機関や苗木生産者と協同でプロジェクトを立ち上げ、抵抗性クロマツ苗木の生産性を飛躍的に向上させる技術等の開発とその技術の実用化に取り組んでいます。

2 具体的な取り組みと期待される成果

平成 25 年度から「抵抗性クロマツ種子生産の飛躍的向上」、「抵抗性クロマツのさし木増殖技術の開発」と「東北地方への抵抗性苗木の導入技術の開発」に取り組んでいます。これらの技術により、これまでに比べて 1.5 倍の苗木を短期間のうちに確実に生産し、需要の 8 割を賅うことを目指しており、プロジェクト一年目である平成 25 年度には、最終目標の 1 つであるコンテナ実生苗の大量生産技術の開発に必要な充実種子の効率的で確実な選別法を開発しました。開発した技術は、「苗木の大量生産の実証試験」と苗木生産者への「普及支援業務」を通じて直ちに実用化試験に供されます。

また、平成 26 年度からは、キリン（株）R&D 本部基盤技術研究所が新たに参画し、「クロマツ不定胚からの苗木大量増殖技術」の開発に着手します。この技術は組織培養等により種子 1 粒から最大 10,000～100,000 本のクローン苗木を生産できる可能性を持つもので、本プロジェクトにおいて抵抗性クロマツ種子から苗木を大量に生産する技術の確立を目指します。

これらの成果により、海岸防災林の再生と被災した海岸部周辺の住民の生活と産業の早期復興に貢献することが期待されます。

3 プロジェクトの概要

農林水産省 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業【実用技術開発ステージ】

「東北地方海岸林再生に向けたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上」

期間：平成 25～27 年度

中核機関：（独）森林総合研究所（林木育種センター東北育種場）

参画機関・企業：（地独）青森県産業技術センター林業研究所

宮城県林業技術総合センター

福島県林業研究センター

宮城県農林種苗農業協同組合

キリン（株）R&D 本部基盤技術研究所

（用語解説）

コンテナ苗とは、マルチキャパティコンテナという成育孔が複数ある植栽容器で育成された苗木のことで、東北地方太平洋側地域の海岸防災林を再生する計画で用いるクロマツ苗木の規格として指定されている。

東北地方太平洋側の海岸防災林の現状

・主な構成樹種はクロマツ



・津波により1000ha以上が壊滅



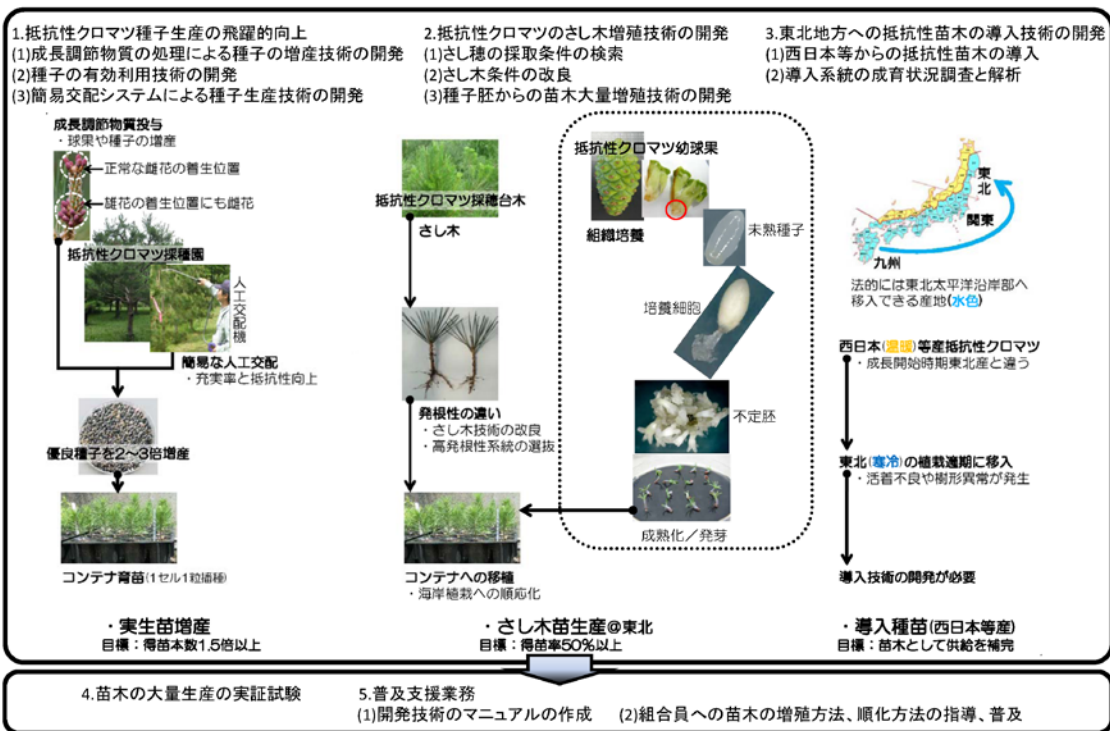
・マツ材線虫病の最前線

500万本以上のマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木が再生に必要なだが

- ★ 東北地方産マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツは大きく不足
- ★ 全国の年間生産量合わせても36万本、すべてを再生に供給しても14年分必要

・東北地方における抵抗性クロマツ種苗生産の飛躍的向上

東北地方太平洋側の海岸防災林の再生を促進！



種苗大量生産技術の実用化

担当・連絡先：独立行政法人森林林総合研究所
 林木育種センター東北育種場
 育種課：織部
 電話：019-688-4517
 住所：岩手県滝沢市大崎 95